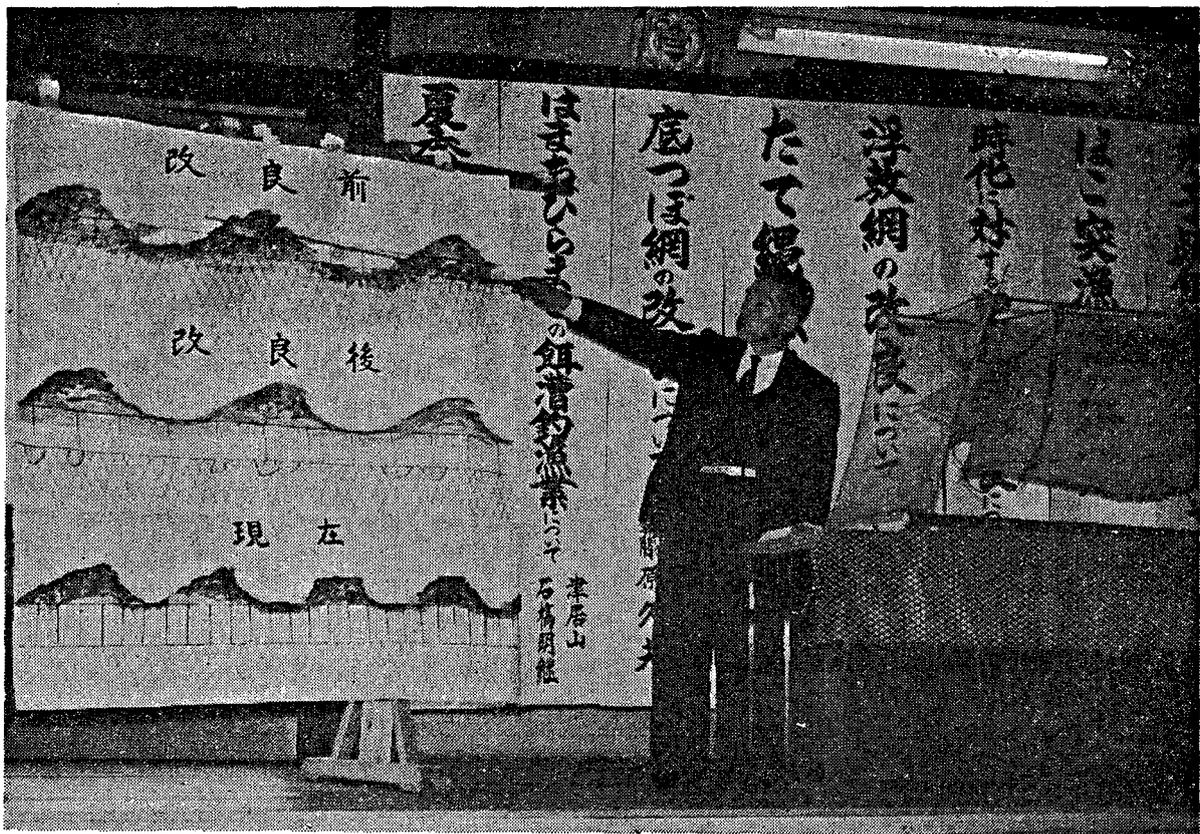


第廿九号昭和卅四年一月十五日発行
 毎月十五日一回発行 一部 十円
 昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

水 稲

一 月



(研究発表但馬大会33. 12. 9)

兵庫県漁業協同組合連合会
 財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

漁調委だより

◇西播のいかなご船びき網漁業の許可統数について審議

撰播海区委員会

撰播海区委員会では、十二月二十四日午前十時三十分から姫路市労働会館で第三十回委員会を開いて次のことを審議した。

また、当日会議に先立ち、十二月初旬に岡山、香川、徳島の各県におけるマンガ漁業の現状を調査した結果について各委員から報告し意見の交換した。
一、四播のいかなご船びき網漁業について

西播地区におけるいかなご船びき網漁業の許可基本統数(昭和三十三年六十統)とその操業について過去一カ年の実状を検討し、次年度の許可方針を審議したが結論が出ず継続審議することになった。
二、西播の小型機船底びき網漁業の調整について

西播地区の小型機船底びき網漁業の漁具かつ走装置撤去の状況について報告があり意見交換をした。

三、県漁業調整規則の一部改正について

メートル法の完全実施に伴い、規則中、「燭光」とあるのを「カンデラ」に改正し、昭和三十四年一月一日から施行することについて承認した。

◇浮敷網漁業の許可方針について審議

但馬海区委員会

但馬海区委員会では、十二月二十五日午前十時から城崎郡香住町日水研支所で第九十六回委員会を開き、次のことを審議した。

一、浮敷網漁業の許可方針に対する諮問答申について
前回の委員会では但馬海区における浮敷網漁業の許可及び操業調整について協議し県に意見具申した

が、このことについて県から許可方針について諮問があったので審議した結果。

1、許可統数は制限しないが許可は、漁業協同組合の正組合員七人以上の同意あるものとする。即ち、七人以上の共同経営体に対して許可する。

2、この漁業に従事する者は、同意した正組合員の世帯員とする。

3、操業時期、操業区域、使用漁船等は、さきに意見具申したとおりとする。

以上のように決定し答申することになった。

二、県漁業調整規則の一部改正について。

メートル法の完全実施に伴い、規則中、「燭光」とあるのを「カンデラ」に改正し、昭和三十四年一月一日から施行することについて承認した。

(水産課調整係)

× × ×

目次

漁調委だより	1
年頭所感	
県漁連会長	
三浦清太郎	2
年頭の始めに	
水産課長	
森沢基吉	3
研究の成果を競う	
第七回水産業改良普及研究	
発表兵庫県大会発表要旨	3
共済事業の現状について	
全水共兵庫県事務所	12
内海漁連の遭難	
共済事業について	13
熱心な他府県の	
研修グループ	13
聞きある記(その9)	
漫坊	14
漁船にも騒音防止を	
水試 杉本技師	16
農林漁業団体職員	
共済組合法に関する質問	
と回答(その二)	18

年頭所感

昭和34年1月15日発行

29号

兵庫県漁業協同組合連合会

会長理事 三浦清太郎

一九五八年は国内的、世界的にも種々な話題とニュースを記録し、終りにチャブさんとミッチーさんの恋愛問題、即ち皇太子殿下の御成婚が発表され遠く大化の昔よりの永い伝統と大きな壁が打抜かれて、世界中の話題と人気をかつ浚た大ニュース

猪突一本道の猪の年の当り年、更に本年は協同組合発足十周年の記念年でもありますので、お互に大いに頑張らん事を御誓約したいと存じます。

現下我国の漁業者中には制度改革調査会の動きに相当な関心を注がれているのではないかと解するのであります。その調査会は、昨年六月五日二十五名の構成メンバーを以て発足して、総会を三回、部会を三回、計六回の会議を経て現に論議の世界には

いった感がするのであります。そこで法改正のねらいについては、私がこの調査会に臨む基本構想の概念では、我国の漁業に関する法律は永い沿革と歴史があると共に、我々の先人の苦心と努力の結晶であって、実に立派な法律であると今も尙信じているのであります。故にこれを根本的に変るが如き事は不可能な相談であり、又必要もない、若し冒険的に根本より変ると仮定すれば、これは

全く危険至極なりと考えるのであります。ところが現行法は約十年前に改正されたが、当時と現在は時代の交遷が甚しく、我国内外の実状や、漁業の実態が大きく変っている事が見逃せない為めに、法の中心が狂ったり、壁が出来たり、空廻りの箇所を生じたり、法のある部分が眠っていて動いていない点がある事は否定出来ません。ただし幸いにしてこの種の問題点は、既に浮び上っているので、これを慎重討議の上、より良いテコ入れをする事が法改正のねらいなりと信じてるのであります。

そこで前述の浮び上っている問題点と言う意味を、具体的に上げて見ますと。かつての公海自由の原則の線は解消された事、戦後続けられて来た食糧増産一本槍の政策は変更の時期に達している。むしろ漁業経営の安定化の問題、これに伴う自主的漁業調整可否の問題、漁業生産物の消費拡大と、魚価維持対策による消費流通改善問題、更に漁業法、水協法、水質汚濁防止法、沿岸漁業維持振興に関する強力な立法化の問題、これに関連する漁業権拡大強化と、沖合漁業との競合調整に関する問題、大臣許可と知事許可との調整問題、漁業取締規則、漁業権の主体性、協同組合のあり方、漁業金融問題、漁業調整委員会のあり方、尙全体総合的基本法の制定問題等に大体的に思われるのであります。したがって以上の問題点の中で、現在までに私は漁業権の主体性と、協同組合のあり方については特に意見は発表しているのであります。

正誤表	二頁上段の一五行目
設	日銀貸出し 日銀通貨 日銀通貨
正	日銀通貨 日銀通貨

第三種郵 (2) 正しく我国経済の膨脹を意味するものであり将来の伸張がうかがわれるのであります。一面国際市場の競争激化の公算の難問題がある点は見逃せないであります。ただし気分的には皇太子殿下御成婚ブームと、

根本より変ると仮定すれば、これは

と云うところが、この調査会の審議要領の中には自由討議に重点を置いて、議事内容を発表する事は出来ない制約があるのであります。そこで正式会議を離れた席で私の話した一こまを記述しますと、この調査会の構成メンバーを分別すると、かつての行政面の経験者、次官と長官が六人、学者が六人、漁民代表が五人、その他で計二十五名でありまして、立場の相違と顔ぶれ違いのせいか、会議を持つと必然的に、病理学と臨床学の議論や問答の様なふんいきになるのであります。そこで私は、この事実をとりあげて、我々漁民代表者は例えば田舎の大工だ、大工故に設計する技は知らん、ただし設計の技は知らぬが、多年の経験と勘で必らず家は建るし船も造る、ところが大学の先生方は、設計は確かに上手でデザインもうまいが、直接に家も船も造らないう造らないうと思う。更に我々漁民代

性、協同組合のあり方、漁業金融問題、漁業調整委員会のあり方、尙全体総合的基本法の制定問題等に大体的に思われるのであります。したがって以上の問題点の中で、現在までに私は漁業権の主体性と、協同組合のあり方については特に意見は発表しているのであります。

表は、立場と思想的に意見は一致しているが、しかしその一致した意見があながち万全であるとは自惚れていない。いわんや学者の先生方の理想的な意見や、反論などとよく練り合せてこそ完全な意見が生れて来るのだと思う。

以上の観点より押して考えると、この調査会は全く蒲鉾屋の原料と、職人のようなものだ、蒲鉾の原料は魚が土台であるが、魚だけでは蒲鉾は出来ない、メリケン粉を入れ、塩や砂糖、更に味の素等を入れないと原料にならない。そればかりではなくうんと練らねば製品にはならない。又製品が出来ても板に付かない蒲鉾は駄目だ、とにかく我々委員は、この蒲鉾を造る様に、法改正の答申案を創る又これが法制化は、板を付ける意味の如く専門の役人の仕事だと思ふ。実はこのようなユーモアにして哲學めいた真理を話した事があるのであります。したがって法改正ともなれば、漁業者に利害得失関係の伴う重大問題であり、慎重真剣に研究の要あり、ために衆智の総意を基礎に、適切な意見をこの調査会に反映する様との念慮より目下尙勉強中なのであります。故に關係

者各位の御智恵拝借を願うと共に、今後より一層の御支援と御鞭撻賜ら

んことを特に御願いしまして年頭の御挨拶の言葉と致します。

年の始めに

水産課長 森 沢 基 吉

今年猪の歳。猪というものは仲々威勢が良い。世に猪突猛進という言葉があるが、猪という動物は首が短くて方向転換がききにくいので目標を定めたらまっしぐらに前進する習性を持っている。

首進は禁物であるがしっかりと方向なり目標を定めたら、これに向って突進することを猪の如くありたいものと思う。この意味で昭和三十四年は飛躍のためにお互に猪を見習う可きであらう。

沿岸漁業に難問山積の折から、漁業関係者多年の要望であった汚濁水防止関係二法案もやっと日の目を見た。決して満足の出来る完全なものではないが、全然野放しの状態よりは数歩前進というところ。

むつかしい問題だけに当事者がお互に良識の上に立ってルールを守って行くようにしてほしいものと思ふ。要は運用と遵法精神にあらう。

桜さく春には国民こそぞって御祝い申上げる皇太子さまの御成婚の儀がとり行われる。何となく明るい希望の持てる年である。

今年が会員の各位にとって多幸な一年でありますよう心から御祈り申し上げます。

研究の成果を競う

第七回水産業改良普及研究発表兵庫県大会

昨年まで兵庫県漁村青年大会として毎年開催していたこの大会は、こ

としは名前を改めて開くことになった。改名の理由は、この種の催しが全国的に実施されることとなり、体

系化が進んで来たので、全国大会に名称を併せることとしたからである。ちようど昨年五月、財団法人兵庫県水産業改良普及協会が設立されたので、主催者の一員に加え、兵庫県・兵庫県漁連とともに三者共催ということになった。

県大会は一月十七日、県立水産会館において十六名の発表が行われるが、これにさきだち十二月に開かれた予選——但馬大会、淡路大会、摂播大会において行われた発表の要旨を掲載し、県大会参加者の参考としたい。(紙面の都合上、図や表は省略した)

イカナゴパッチ網の研究

飯屋水産4Hクラブ

戎 功

淡路町飯屋の漁業者は、大部分が小型機船底曳網に従事している。冬から春にかけてはイカナゴのフルセ(成魚)が重要な漁獲物である。当クラブでは昭和二十七年以来、フルセを対象とする漕刺網パッチ網の研究を行って来た。

漕刺網からパッチ網へ 漕刺網は約百年前から飯屋特有の漁法として行われて来たが、いろいろ欠点があるので三十年代からパッチ網の研究を行ない、三十一年にはパッチ網に転換がはじまった。

研究目標 三十一年度にクラブの研究目標として次の二項をとりあげた
①モジ網と三十二節網との比較
②浮子繩と網の仕立による網成り、クラブ員をA・B・Cの三群に分けた。

A—網地三十二節、浮子繩重いもの

網の仕立は泉大津型

B—網地三十二節、浮子繩軽いもの
網の仕立はエビ漕型

C—モジ網、浮子繩重いもの、仕立はABの中間型

結果は、ABは大差がなく、Cが良好であった。

三十二年度の研究として、沈子繩と網の仕立の関係をやはり三グループ

(立)(繩)(漁)(業)(の)(研)(究)

柴山港水産研究クラブ

寺 川 寅 雄

に分けて研究した結果、Cグループ(ほぼ前年に同じ前起しを用いる)が最もよかった。

三十三年度の研究として合成繊維の導入をはかった。二カ年の研究結果から、沈子繩は刺網よりやや重くし前起しをつけ、中間的なワキ網をつけた。魚が成長してくると綿糸網に入らなくとも化繊網はよくとれた。

今後の研究課題 大潮・小潮・潮流によって浮子のつけ方に影響があると思うので、その関係を追究する。

さらに張竹と手木の関係、ロープの太さと堅さ、浮子繩の新品と中古品とのちがい、モドシのつけ方、曳網速度などを研究したい。

ある。餌にするスルメイカが不漁なので、擬餌・イワシ・小アジの使用を試みた。擬餌は失敗であったが、胃内容物にヒントを得て使用したイワシと小アジでは、イカにまさる成績をあげた。イワシの上あごに釣をかけなければならぬことを知った。また活魚槽の孔のあけ方を研究して、十数時間も活かすことができた。五燭くらの電球をともして共食を防いだ。

三、漁具

1、鉄すい(オモリ)をよく岩などにかけて失うので、主具と鉄スイの間を細いナイロンでつないで損失を軽くし、また鉄すいの爪金を細くして外しやすくした。

2、枝間の長さ、枝糸の長さをいろいろに変えて試験して、間六米、枝糸三米、針数五本が最上と決定した。

四、漁場

漁場により漁獲が大変ちがうのでその日の好漁場を早くみつけて、漁具を集中しなければならぬ。

五、今後の研究

他の漁業とこの立繩との併用によって稼働率を向上したい。

一、動機

三十一年に立繩が導入され、かなりの成績をあげたので、四名のグル

ープで研究に乗出した。

二、餌料

対象とするのは主としてハマチで

フグ浮延繩の研究

沼島漁協組青年部

青山 国夫

沼島は人口約二千のうち八割が漁民である。年間漁獲高は約十五万、七千万円でありその主体はハモ等の延繩漁業である。

動機と着眼点

- ①冬の閑漁期対策として適当な漁業の導入ないしは創案
- ②冬の漁業であるフグ延繩は底延繩であるが、周防灘のようなフグ延繩が紀伊水道でできないか。
- ③秋のカツオ浮繩にときどきフグがかかることがある。

かくて昭和三十一年から冬場対策としてフグ浮延繩の研究にかかった。

三十一年の研究

- 島で一ばん熱心な吉田安太郎氏を中心に約五日間試験操業を行った。この結果、底延繩を上まわる成績をあげたが、次のような改良点が明らかになった。
- ①枝糸の長さや繩の構造
 - ②エサの種類
 - ③ツリ針

枝糸の長さ 底繩とちがって浮繩は枝糸の長さが重要である。一間、二間、三間、四間の四段階で比較試験を行った結果、三間が最良だった。幹繩は当初二三本より使ったが、三六本再撚に改めた。枝糸はチモトの針金(リッカ)を十センチから十五センチに改め、ナイロンテグス約五〇センチを間に入れた。

夏期におけるイカの鮮度保持

香住水産研究クラブ

駒 居 文 夫

ツリ針は、フグはエサをコブリ食するという観点からクキを短くしてみたところ、リッカをかみきられて損失が多くなった。さらにフグの口内皮のやわらかい点に着眼して針先をつよく内へ曲げた針をつくったところ好成績だった。

エサは、塩サンマ・生アジ・マイカについて比較して、サンマが良かった。切方については三センチくらいが適当だった。

効果 果 フグ浮延繩によって冬季においても夏の盛漁期に劣らない漁獲をあげ、漁家経済の改善に大きな成果を得た。

動機 スルメイカは鮮度漁場から港までの保存法によって価格が大へんちがう。鮮度がわるいと大量に揚げても金高がそれほどでない——労力のみ費やす。上手に保存してよい鮮度でよい価格という点に主眼をおいた。

方法 従来は海水で氷水をつくり

これにイカを入れる。これに二つある。——海水とイカを同時に氷に入れるのと、先に氷水をつくってからイカを入れる。この二法について討議をした。その結果を実験した。

実験 ①伊藤は魚倉に氷十六貫(普通の二倍)を入れてみた。結果は失敗であった。イカが白くて赤味が出

ず、底の方はつぶれており、価格が安い。氷をよくきかしたからといって必ずしも鮮度がよいわけでない。原因を日水研の小川技官にきくと、海水がうすめられてナトリウム塩の不足であろうと教えられた。これを実験で確認した。

海水の注入量 そこでグループ員十名が分担して海水と氷との割合を調べた結果、イカ十六キロ入八箱を限度とし、海水は九六リットル程が適当である。気温が高いときは増水をし、食塩を混ぜる。漁獲が少ないときは海水を減らすとやはり塩を混ぜなければならぬ。イカの肌が氷に接触しないようにする。

この結果、スルメイカの単価を向上させることができたが、板魚倉では温度が上りやすいので、断熱のために**サクライト**を使うことを考え、まず陸上で板ばりとサクライトの比較試験を行った。○度の海水を約十時間入れておいた結果は

サクライト 四・七度C

板 十一・五度C

これによってサクライト魚倉をつくり比較した結果、五日間で一箱当り一六六〇円の増収となった。

しかしその後スルメイカがとれなくなり、サクライトの実用試験を完結できなかった。

時化に対する

定置網の改良

余部水産クラブ

沢田嘉己

(県大会では、昨年以前の研

究発表をも総合したものとし
て発表され、標題も多少変更
される見込)

余部では大敷網(組合自営)が中
心漁業であって全水揚の九割を占め
る。冬の時化に耐えるように網の各
部の改良を行った。

一、ブイと子繩(吊繩)の改良

ブイを小型にし、浮力を弱くし、
平均に浮力がかかるようにするとと
もに子繩を長くした。また子繩の材
料はワラをやめて柔うちのマニラを
使うこととした。

二、いかり網の改良

従来のくくり方を改め、いかり網

の上部に、輪型のワイヤーを使用し
ていかり網の切断事故をなくした。
またいかりの移動の原因がいかり網
の不等長であることによることを発
見した。

三、ツボ網の改良

余部大敷は元来、落網式の構造で
あるが、改良によって一部にツボ網
をつけて漁獲能率を向上してきたが
これが丸ツボであるために、三千
しか収容力がなく、大失敗をしたの
で角ツボ(一万枚収容)に改めた。
しかしなお時化に弱い欠点があった
ので、エスロンパイプ等を用いて、
戻り部分などを改良した。

網地は「登り」などがサラン、そ
の他はカネダイアンである。

たこ一本釣への合成繊維の導入

林崎漁協組青年部

森本勇

動機 林崎の主要漁業はたこであ
る。とくにタコ一本釣は零細な漁業
であり従事者が多い。しかしタコ一
本釣では、毎日のシブ掛作業に大き
な労力が必要であり、シブの経費も

大きいので、これがいらぬ合成繊
維で適当なものを探していた。
研究の組織化 ナイロン・クレモナ
などいろいろの材料を個人的に使
てみたがいずれも在来の釣糸(ウミ

結果次第によくなった。最終的には
スベリどめの問題になったが、強度
をやや犠牲にすることによってほぼ
解決できた。

ウミノとの比較

エンピロンの長所

①シブ掛がいらぬ。毎日一時間の
労働力の節減とウミノの自家製造
(約五日間)の労力を節減するこ
とができる。

②資材費が節減できる。材料費はほ
ぼ同じであるが、シブ代だけ安く
なる。

③結合が容易である。

ウミノの長所

①のびがほとんどない。エンピロン
は処理の改善によって合成繊維と
してはもっとも伸びが少ないがや
はりウミノがまさる。

②適当に古びて強度が落ちるので、
古いものを先糸につなぐと、障害
物にかかったとき先がきれて損失
が少ない。ただしエンピロンでも
先に細物を使えばよいと思う。

結論 ことしはマダゴの異常な不
漁によって、秋以降の研究が中断さ
れたけれども、エンピロンがタコ一
本釣の釣糸として非常に有望である
ことを認めることができた。

まるご擬餌釣の改良

三尾水産クラブ

中村新一

んでいった。

二、問題点とその改良

①水切りと円形型は回転しやすく不良で、船型のもの稜を削ってよい形を得た。

②光沢とメッキ

ナマリ・スズの比較から、銀メッキした。

③ゴムの形と振れ、色

ゴムは擬餌の二・五倍の長さの細い三角形、両角を斜めに切る。枚数は五・六枚、色は赤を含む二色混用がよい。

④ツリ糸とビシの数

擬餌の海底への当りが分りにくいことから、ビシ(鉛)のつけ方の研究に入り、潮流の強弱に応じて、ビシの付け方を変えることとした。

三、普及と効果

すでに八五〇個の擬餌に銀メッキを行い、漁獲高は三尾全体で三五%大きくなった。メッキは、クラブで行うので一個につき五円の実費ですむ。

し、漁獲日誌をつけるとともに白いか釣に熱心は漁業者を招いて研究会を開いた。そして三項目の研究題目——①好漁場の移動の調査②擬餌の改良③集漁灯の研究——を選んだ。好漁場の移動

組合の水揚台帳とクラブ員の漁業

日誌とから次のことを明らかにした

月別の移動——だいたい距岸四〇

五マイルを中心に、七・八月は灘の

方、九月には沖に向い砂地を好む傾

向があり、十・十一月にはさらに沖

合の瀬ぶちまたは瀬の沖方へ移る。

十・十一月には魚体も大きくなり、

漁場が広くなり、漁獲があがる。

一日のうちの移動——朝は沖合の

瀬ぶち、昼ごろまでは沖、午後三時

ごろより次第に灘へより夕方には灘

よりに好漁場が形成され、その後、

次第に沖へ移動する。この研究によ

って白いか釣が昼間もつれるようにな

り夜の漁を上廻るようになった。

トンボ(擬餌)の改良

従来使用しているトンボで効果があると思われるものを持寄って比較し、その結果試験品を試作して、五隻の漁船に各々五種のトンボを積みそれぞれの漁獲を別のトロ箱に区別していれて調査した。

潮流が速いときには重いトンボ、

白いか釣漁業の研究

竹野浜水産研究クラブ

宇川

繁

白いか釣漁業はスルメイカ不漁の

対策として重要な役割を果しており

月によっては一本釣の漁獲高の五

六割を占めている。研究方法

昭和三十三年研究グループを編成

まるご(ブリの若年魚、ハマチより大きい)擬餌釣とは、鉛・錫などにゴム・ビニールの片をつけた擬餌釣を、岩礁附近で底から——三〇センチのところで、たえず上下に動かし魚を誘引して釣る漁法である。

一、研究のすすめ方

①春—夏には、陸に近く西から東へ移動し、秋—冬には沖合を東から西方へ回遊し、四・五・六月が盛漁期である。その回遊量の大小は、イワシと関係がふかい。

②釣場は瀬落ち・潮頭がよい。

③胃内容物は主としてイワシである。

④餌につくときは頭からくいつく

⑤まるごは視覚が発達している。

以上のような研究から擬餌として大切なことは、水切り、光沢、ゴムの色と振れ、釣針であると考え、予備の実験によって次第によいものを選

ゆるいときには軽いトンボがよく釣れるので、二又に一八〇匁のダマをつけ、二―四コ of 軽いトンボをつけたので、潮が速くても垂直におりるようになり効果があがった。

色別には、白色が沖・灘を問わず平均に釣れる。赤色は沖によく、夜光トンボは漁獲はよいが、フグの害のためトンボの損失が大きい。

集魚灯の研究

集魚灯は一〇〇V・二KW直流発電機、バッテリー六―八Vを電源とし一・五―二KW又は六〇―四〇Wの電球を用いた。また水上蛍光灯四〇Wを使ってみたが、光力が出ず成果をみなかった。

光力が強く海底深くまで光が達してトンボを光らせてイカを集めることが必要である。またミラー（反射笠）によって五倍以上の漁獲があがった。この研究によって発電機が急速に普及した。

今後の研究

白いかの食性、産卵を研究し、こ
ういかなのような柴漬を試みようと思
っている。

ハマチ・ヒラマサの餌漕釣漁業

津居山水産研究クラブ

石 橋 朋 継

これは以前には老人仕事とされて
いた小規模の漁業であったが、スル
マイカの不漁対策として関心を呼び
ヨコワに応用されて急速に改良され
た。

漁船 一―二人のり。一―一・五ト
ン、ダイゼル四―八馬力（低速運転
にすぐれたもの）

漁期・漁場 十月から翌年一月まで
十一月中旬から十二月上旬までが盛
漁。

水深三〇―六〇米の瀬の近く。游
泳層はハマチで水深一五―二三米、
ヒラマサでは海低から七―八米の瀬
深みのあるところ。

従来の漁具 幹糸は絹糸をよりあわ
せたもの三〇―四五米に、一グラム
のビシを八〇―一〇〇個つける。先
糸（タレ）は、ナイロン四・五―六
米、釣針は四寸―五寸を二本、これ
を手にもったり、口にくわえたりし

て船を微速に走らせてひきづりをす
る。餌はイカ類。

漁具の改良

1、ビシの付方、幹糸をナイロンに
改め、ビシの数を増加した。ビシの
開合の取方によって流れ方が異なるの
で次の三方法を比較研究した。

- A……ビシの開合は均一
- B……手元の開合をつめる
- C……幹糸を三段にわけ、手元より
二―一・五―一の比。

Aは道具が浮きやすく、底の大きな
魚がつかない。Bは上下動がはげし
い。Cが良好。

2、竿の使用 ヨコワ釣のように竿
を用いて二個の道具を使うこととす
る。竿の先が固くて失敗し、柔かい
ものに変えて成功した。

3、餌料、餌が回転しないように、
餌付けをすばやくできるようにとい
う目的で、餌止めの針金をとりつけ
餌をくくる綿糸を細い鉄線にかえ
た。ケンサキイカを使うときは回転
どめに三角形の鉛の平板をつけた。
鮮度がおちて皮がむくれたものは、
完全に皮をむいて効果をあげた。

効果 以上の改良の結果漁獲高が
飛躍的に増加し、老人仕事から専門
の漁業にまでなり、漁家経済の安定
に貢献することができた。

沖まわし網の改良

東二見漁協組青年会

城 尾 進

東二見では約百隻の漁船のうち、
四十隻ばかりが沖まわし網を使って
秋にはアナゴ、春にはテナガダコや

イイダコを獲っている。漁船は一・
五―二トン、エンジンは十馬力、乗
組員は三名である。

夜間操業 が主であるので、もつと作業を楽にし、能率をあげるために、人力でひく(手びき)を機械力(ローラー巻)にかえることから、この研究に入った。

昭和三十一年 ごろから十名の青年会員で沖まわし網をローラー巻にかえる研究にとりかかった。しかし底曳網の一段巻ローラーや二段巻ローラーを使ってみると失敗であつた。

その対策として①巻揚速度をおそくするためローラーの直径を $\frac{1}{2}$ にする②トモ綱、オモテ綱を別のローラーに巻く③引綱と網の間に擦戻しをつける④引綱と荒手とを長くして網が海底にそうようにする⑤トモ綱は従来のまま右撚二本打五分であるがオモテ綱を左撚二本打七分を使う。このようにして手びきに負けないローラー巻きをつくった。

ローラーの採用 によって仕事が出来なくなったので、網を大きくするとともに、網成の改良を研究した。曳網速度がはやくなったので、浮子を陶製からナマリにかえて重くし、網を保護するためゴム紐を巻いた。アバ綱とイワ綱と同じ長さであったのを、イワ綱を四寸長くしたので、ミトグチが高くなり袋の網成がよくな

つた。その他ミトの各部を改良した。ウバの取り方、手引ではオモテ綱をまっすぐにやり、トモ綱だけでハマワシのウバを取っていたが、オモテも大きくハマワシのウバを取ることにしたので、漁獲が増大した。

効果 沖まわし網の操業時間は十九時—二十三時の間と定められ、合図によって一斉に漁場を離れるの

石桁網漁業における自動巻揚装置の研究

福良漁協組青年部

尾崎繁雄

石桁網は冬季間の漁業として重要な地位を占める。二年間の研究によって石桁網の自動巻揚装置をつくり、操業に非常に効果を収めた。

石桁網の操業方法——略

動機 曳網一時間に対し、引揚に半時間、潮上りに半時間を要するので、操業の半分を引揚げと潮上りに費している。これを改善するため研究目標として①引揚時間の短縮②潮上り時間の解消を考えた。潮上へ漕ぐための研究

であるが、手引はその間に三十番、ローラー巻は網が二倍の長さで網が重いにもかかわらず、三十一番やれる。漁獲高は四カ月間に手引は一隻平均二十四万円に対し改良網(ローラー巻)は三十万五千円である。経費は手引二万円に対しローラー二万五千円と少し多く要する。また体力の消耗が少いので昼間、たこつば・たこ釣などを行なうことができる。

クラブ員の討議によって、ロープ(四分)では抵抗が多いからワイヤー(二分)に改めてみた。しかし巻取りに不便なので効果がなかった。

巻取機の改良を痛感していたところ、大阪府深江にこの機械があることを知って、三隻(小沢・桐原・尾崎)に試験的に据付けた。

一カ月の操業によって三点ほどの欠点があったのでこの改良にとりかかった。

巻揚機の改良

巻揚機の改良については次の四点を目標とし、谷間鉄工所の協力を得てこれを遂行した。

①有効なブレーキをつける。

②歯止めを改良する。

③振動をなくする。

④危険の防止

①がギヤーにはさまって切れることがなくなり、危険もなくなった。また従来のローラーシャフトを利用したので、ローラーが随意に使えし、チェーンの長さを伸ばせば、船に合せて巻取機の据付場所を随意に選ぶことができる。

振動防止には支柱をタイコにそえ、たてゆれ防止に機関室デッキから支柱でささえた。

ベルトの中古品で、ワイヤーをのばすときにタイコに制動をかけるようにし、一個のハンドルで全タイコに制動がかけられるようにした。またバネで歯止めをおさえて勝手にかからないようにした。

引揚装置の改良

ローラーを使うときには、滑車のついた棒を舷側へ突出してこれにロ

ープをかけていたが、コベリを破損しやすいため、汽船のボートラビットにヒントを得て、これを改良した。その高さは研究の結果、タイコの下から三分の一くらいとした。

六回に対し九回。資材費の節減、年間六四〇〇円が二五〇〇円(ワイヤーの使用による)また毎年多かったローラーによる事故がなくなり安全性が高まった。

石桁網の

改良について

江井伸水会

魚住好秋

動機 マンガ漁業の禁止によって、大阪府泉市の石桁網を導入したけれども、漁場が異なるため、改良すべき点が多々あった。底曳研究グループで石桁漁法の改良を課題としてとりあげた。

過程 グループの討論によって遂次改良を試みた。
①コマタの改良

コマタにロープを使う↓チェーンを使う↓コマタに取付バンド(鉄製)を使う↓特殊金物の考案。これによってコマタの調整がらくにな

り、桁のうごきもよくなった。

②曳網の改良

四分マニラロープ↓二分ワイヤロープ↓トワイン巻ワイヤロープの過程を経て、資材費を節約し、操業が自由となった。

操業上の研究

漁具の改良点を活かして操業上次のような研究をした。

①潮流風波を利用して一つの漁場で操業する。

②水深及び底質による曳網とコマタの調整

③漁期による桁の調整
④魚種による桁の調整

また魚価を考慮して操業方法などの研究を行ない、休漁日の設定や漁場を選定し、乱獲の防止と漁場の保護につとめた。

結論 この研究によって石桁網は年間を通じて主要漁業となった。石桁

浮敷網の改良について

香住水産研究クラブ

山田忍

二 対策と改良

一 山口県から 沿岸のウルメ・カタチ・マイワシを対象とする浮敷網を導入した。漁船が但馬の釣漁船でまにあい、資金は五十万円程度ほど多くいらぬ。

しかし山口県と兵庫県の海況の相違のために、①いかりがうまくきかない。②潮流が早い。③二重潮によって網成がくずれぬ。④環巻がおそい。⑤網口がせまく、沈子方がたれる。——などの欠点があられた。

①いかりの代りに、船を二隻用いることよって運用を自由にした。
②二重潮は、上潮の方向と反対に漕ぐ。またいかりを使わないので沖合にまで漁場がひろがった。
③環巻のとり方を改め、環巻を一分間ほどにした。また網の最低部の垂れ下りを防止した。
④底びき網からヒントを得て沈子のつけ方を改めた。

漁法は①資本が少なくてよい②内海漁業に適する③燃油の消費が少ない④漁具の消耗が少ない⑤漁具の流失損失がない⑥漁獲収入が高い、等の理由で好ましい漁法である。徳島県北泊等では今なおマンガ漁法が行われているが、乱獲防止のために心すべき点であろう。

⑤ 張出し竹を二本ぞえにして強化した。

⑥ 魚取部の設計を改め、V字型からU字型に網成をよくした。

三 効 果

九・十・十一月の三カ月間の水揚

高は、最高四百万円、最低二百五十

万円。

タイ五智網の研究

丸山水産4 Hクラブ

菅 育 郎

五智網は丸山で最も重要な漁業で盛漁期(五・六月)には約二〇隻が操業する。

動機 五智網は漁場による差が甚しい。平らな海底で漁獲する方法を研究したいと考え、漁業部員三名(中尾・西本・菅)によって昭和三十三年四月研究グループをつくった。

① 三枚網の改良 鳴門寄りの深みではミトの三枚網の損失が多いので、ミト下に二ヒロを入れ、さらにワキ網を一反増したところ、アバ巻もな

てさらに試験したところドロ場では三枚網より成績がよかった。

③ 操業法の改良 ワラ網をやめて全部マニラロープにかえたところ、五〇ヒロで沈降が約二分間はやくなり、所期の網成になつて魚が入りよくなった。

④ 網地の色の試験 一枚網は白で使う。三枚網はカッチ染であったが、黒ずむと海水が透明なときにタイの赤茶について比較試験を行ったところ。赤茶がもっともよかつた。

チヌフカシ

釣の研究

富島漁村

青少年クラブ

田 中 強

動機 冬の閑漁期対策の研究であつて昨年発表した藻スズキ釣に続くものである。今までチヌ(クロダ

イ)は、九十一月にチヌ延縄として漁獲していただけであつた。チヌについては各地ともよい漁法がないときくので、研究課題としてとりあげた。

着眼点 真夏のタイ釣にときどきチヌがかかるのでタイ釣の道具(餌はアカエビ)をもとにして試験を行った。比較の対照としては同時の一本釣であるタコ釣と金額の比較をすることとした。この試験によって次のことが分つた。

① 三〇〇尺以上の大きなチヌが釣れる。
② タイ釣は水深二〇―四〇ヒロに對しチヌ釣は水深一〇ヒロ前後がよい。
③ チヌが食うのは底から一ヒロくらいの間である。

④ 流れがゆるいときは釣れない。

⑤ 道糸は二〇ヒロ全部を流して釣る方がよく釣れる。

改良点 試験操業の結果から……

① 道具については、漁具を軽くして潮にふけやすくし、道糸を細くし、チモトも細くした。

② 操業については、「かいあげ」は二ヒロを三手にあげ、潮のはやいときに使う。

このように改めて再試験の結果、小型のチヌも釣れるようになり、漁獲も向上した。

その後試験をかさねて七ヒロ半くらいの浅いところでは、水深の約三倍、一〇ヒロ以上では約二倍道糸をふけさすと充分であることを知つた。

操業上の注意 二年にわたる試験によつてこの釣をチヌフカシ釣と命名した。操業上の要点は①潮流がつよい場所をえらぶ②大潮がよい③延縄

が操業しているときは食がわるい④
漁期は十月から十二月半までがよいのである。

この漁法はタコ釣がやりにくい潮が強いときがよいので、タコ釣と合せ行うことよって増収となる点に利点がある。まだ改良の余地はあるが、すでにかんりの普及をみているので、今後さらに研究したい。
(淡路大会に発表、県大会には発表しないが、今後有望な研究であるので誌上紹介する。)

おことわり

本紙に掲載しました発表要旨は、過日の各海区における大会において発表され、県大会に参加されるのでありますが、まだ二問題だけが原稿未着のため掲載出来ませんでしたので、予めおことわり致しておきます。

共済事業の現状について

全水共、兵庫県事務所

昨年六月に全水共兵庫県事務所が設置されて以来、従来内海、但馬の両漁連に委託されていた火災共済事業を始めとして、厚生共済及び漁業共済と、三種の共済事業を実施してありますが、関係者の方々の理解と御協力によって次第にその実績を現わしつつありますことは喜ばしいこと

であります。特に火災共済については八年という業歴もあって、契約高は五億円に達し、漁業協同組合の施設ほとんどが契約をみている現状であります。しかしながら漁家に至っては、但馬における全漁協と、内海関係にあっては、明石浦、南淡、生穂、本庄、東須磨、東神戸、林崎、岩見の各漁協を除いては未だその一部に過ぎないのは残念でありまして、一日も早く全戸総加入によって、漁家を火災から完全に護らねばならないと思えます。
次に漁業共済については、何とい

っても、実施後尙日が浅いため一般にわたって周知されていないということと、併せて、本県における主要漁業の漁期等の関係もあって、左表のとおり数件に過ぎないが、本年の漁期に大きな期待がかけられるところであります。

最後に厚生共済であります。これは、同類の事業が多いことからして、その伸長は仲々容易なことではないのでありますが、一部の組合にあっては、組合事業の一端として採り上げられつつありますことは全く心強い限りであります。最近農協の生命共済が驚くほどの勢で伸び、今や大手筋の保険会社並であって、昭和三十六年には契約高一兆円に達すると新聞は報じています。この事は四年連続豊作という天恵にもよるものでありましようが、何としても、農民の協同組合意識に基因するものであると信ずるものであります。同

じように系統事業として行う共済が、漁業において伸びないという理由はないはずであり、又かねてからの、漁業者の痛切な要望が、ようやく実現を見るに至った実情からしても、今後相当の伸長を見込めるものであります。

以上の状態で、これを全国三十八都府県の、府県別総合成績に見ると、洵にお恥しい次第ながら、本県は第二十位という振わない状況でありまして、第二年を迎えた本年は、大いに期待をかけている次第であります。何とぞ皆さん方の絶大な御支援御協力をお願い申し上げます。

一、漁業共済

余部漁協	定置	漁獲	一件
南淡	漁具	漁獲	一件
釜口	旋網	漁獲	一件
二、厚生共済			
内海漁連	三件		一三口
兵庫漁協	二		五
東須磨	一		五
須磨浦	一九		一九
西垂水	一		二
岩見	四		一〇
香住	三〇		五四
諸寄	六		一一
竹野浜	七		一三
計	七三		一三二

内海漁連の遭難共済事業について

内海漁連が福利厚生事業として過去三カ年に亘って実施してきた、遭難共済事業の概況を述べて、今後の加入者の参考にしていただきたいと思います。

申す迄ありませんが、漁業者は海上で働き危険にさらされる場合が多いわけでありまして万一にも不幸遭難したと言うような場合には、一家の働きの中心を失い、たちまち家族の生活に困難を来たすという悲惨事が起るのであります。

このような不幸の起きた場合、内海漁連では早速傘下八十五の漁業協同組合に義捐金を募集して、これを地元の漁業組合長さんを通じて、御気の毒な遭難者の遺族の方にお届けいたしておるのであります。

もとより、応募された尊い義捐金は遺家族の方々にとっては、大いに慰めとはなっておりますが、その性質から言っても充分とは申されないものであります。

そこで昭和三十年十月から、兵庫県庁水産課の御指示によって内海漁

連で実施いたしました遭難共済事業は、このような不幸に対処せんが為にはじめられたものであります。

現在の加入組合は二十一組合でありまして、この加入人員は二千百三十七人です。

そしてこの三カ年間に海上で遭難死亡せられた六人に対して三十六万円を、又沖合で漁業に従事中に負傷せられた六十六人に見舞金として十三万六千五百円を、病気で死亡せられた八十七人の漁家に二百七十万円を支給して、加入漁業者の温い血の通った助け合い事業を行って参りました。しかし乍らこれに加入している組合はさきに申し上げた通り、傘下八十五組合中、僅にその四分の一にも足らぬ二十一組合でありまして六十余りの組合員の方々には、折角のこの制度が利用されていないのであります。

昨年度において加入している、二十一組合の協議会が二回に亘って開かれましたが、その結果会議の決議として今後この事業を継続して行くには、未加入組合に是非

加入してもらおうように勧誘して、内海漁連傘下漁業者全体に普及利用してもらいたいということでありました。

又昨年十一月七日の内海漁連の役員会でも同様の御意見でありました。右のような次第でありますので未加入組合では、一月、二月の総会や役員会において充分御協議を御願

い致したいものと存じます。
なほ加入の手続きについては内海漁連に御連絡下さいませれば御相談させて頂きますが、御参考迄に大略を次に掲げますから御覧下さい。

一、内海漁連の遭難共済事業規程によつて、加入組合の組合員は必ず

全組合員が洩れなく一口宛加入し
てもらうこと。
二、掛金は一口について金七百円であること。

但し一カ年の掛け捨てのこと。
三、組合員以外の乗組員は、なるべく多数加入することを望みます。但し乗組員で最初に加入する者に限り、六十才以上の者の加入は認められないことになっております。

四、共済金は遭難死亡の場合は金六万円、病気死亡の場合は金三万円、負傷の場合はその程度によって見舞金は若干出ることになっております。
(内海漁連)

ぞくぞく来県

熱心な他府県の研修グループ

今年からはじまった国庫補助による漁業技術交流事業によつて、多数の他府県の研究グループが兵庫県へやってくる。県水試では、その応接にうれしい多忙さである。居ながらにして他府県の最もすぐれた研究熱心な人たちと会え

るのであるから、非常に有難
いといわなければならぬ。
年末には新潟県と三重県から
の来訪があった。その印象記
を寄せてもらったので次に掲
げる。

兵庫県での漁業視察を顧みて

新潟県水産試験場

技師 黒 岩 護

十二月十七日より十九日にかけて
沿岸漁業視察のため、新潟県の研究
会員代表四名と共に淡路から明石を
視察させて戴きましたが、視察後に

の増加となる。第三に、水産技術改
良普及指導員が平均二グループに一
人当り配置され、指導がゆきとゞい
ている。

同行の研究会員がどのような感想を
もったかを代って述べますと、第一
に、淡路地区研究発表大会に参列し
て研究発表を聞いたが、発表迄の過
程が個人的な研究でなく、グルーブ
による研究と討論の結果が殆んどで
あった。このようにグルーブによる
研究を行えば、研究会の活動も活潑
となる。第二に、仮屋で行っていた
タイ網へ出漁する時も、別にエビ網
を積んでいてタイの漁が悪ければエ
ビ網で操業するというように、沖合
で多角的に操業することは操業日数

以上が同行した研究会員の感想で
ありました。又、水産試験場を訪問
しました時に、普及調査課の人員が
他の課の人員より多く配置されてい
るのを見受け、これだけ普及指導に
意を用いているのが察せられて、な
かなかのことでは普及指導はできぬ
ことを痛感致しました。
終りに、今回の視察に当りお伺い
した漁協、加工場の方々にお礼申上
げますと共に、色々とお世話戴きま
した水産試験場の方々、指導員の方
々に感謝致します。

聞きある記

「これから本格的」

うまくいった人工採苗

アサクサノリ養殖の巻

(その9)

1959年——新春の静かな暁暗をついて、海苔摘み舟が岸を離れゆ
く。しびれるようなつめたさが、あたりの大気をきつく引きしめ、潮の
香りもたずんだまま動かないようだ。ここは県下でも屈指の海苔場、
赤穂市の海岸である。昨年の暮まで、暖かくて気をもませた水温も、年
が改まると不意に低くなつた。「寒波大歓迎」海苔業者のヒトミは明る
く輝やく——今年はかなり良さそうだ——という噂に、この一年間、海
苔タネの採取から培養、それから網ヒビへのタネ付けという任務を終え
た県水産試験場の「海苔採苗場」も、おだやかな海にその姿をくろぐろ
と浮き立たせている。いよいよこれから採取の本格的な季節／うまくい
った人工採苗の様子を伺ってみるのも意義ふかいことといわねばならぬ
だろう。

(漫 坊)

「32年の12月ですから、一昨年に
なるワケですね。その12月に、カキ
殻をきれいに洗ってタンクに入れ、
そこへ海苔を入れて、いわゆるタネ
採りを始めたのです。この場合タネ
とは「果胞子」のことで、これは裸
かの細胞ですからグニヤグニヤして
いますが、時間が過ぎるに伴って球
状になり外側に細胞膜ができます。」

これが海苔の体を作る発生基本の細
胞になっていまして、33年の3月位
までに果胞子をしっかりと確保し、
それから晩春——初夏の頃、管理に
入るのです」

「管理というのは？」

「死なないように保つのですが、
……」

「生簀で魚を飼うみたいですか」

「ええまア、それに水温とか照度などによって病気になるますとネ。困りますからネ」

「いつも拡大鏡で調べるのですか？」

「そうですよ。水を替えたり温度を調節したりして元気に成長するように、見守ってゆくのです」

「タネ付けは？」

「10月下旬には終るので、今年度は初めてですから、四六〇枚を処理しましたよ。ピヨコピヨコ出てくる単胞子を網ヒビに附着させます。この単胞子が海苔の幼芽をつくり、幼芽からまた単胞子を出しそれが幼芽となり、といったように増えてゆくワケですネ」

「拡大鏡ではわかるのでしようが、肉眼で見え出すと——」

「なんともいえない嬉しさですよ。何しろ暑さ寒さを一しよに暮してきたんですから、いうならば手塩をかけて育ててきた——ということころですワ」

「苦勞をかけた子ほど可愛いと——」

「そういうことですかネハハハ」

× × ×

——しかしほんとうはこれからである。

昔は「海苔づくりはアホでもできる」という人もあった。いまはアホではとてもやってゆけない。それはソダから網への転換によって大きく変ってきたといえるだろう。なぜならソダの時は、とにかく建て込んでおけば海苔がつくことにはば間違いがなかったが、網の場合には附着層に張り込まないと全く海苔がつかないのだ。大潮、小潮のたびに、張込みの高さを変え、そして摘みとりの程度を加減する——そうした苦心をかさねる者に、はじめて収量の増加と品質の優良さが恵まれてくるのである。

海苔業者にとって、海は掛値なしの宝庫だ。けれども宝庫は努力しない者には開かれない。朝は三時には起床する。つめたさを掻き立てるよう摘み取り舟を操る。こごえる手をいたわりながら、じつとりと重い海苔を採取する。帰ってきて洗滌、細切、漉き、乾燥となみなみならぬ苦勞である。

けれどもいままで他県などから、危惧しながら運んでいたタネの心配がなくなってくることは、はかりしれない喜びで——これで希望が大きいにもてるというもの——と或る業者は語っていた。

× × ×

「まだほんとにこれからです。それはこの人工タネ付けが、どのようにならぬか、品質はどうか、などとばくらの心配は果がありませんヨ」

「そうなんです。採取されて製品になって、それが売れてからですナ」

「そしてそれから次の年の構想に入るのです。今から来年のことまで考えるのですからネ」

県水産試験場養殖課の浜口さん、竹田さん、課長の前田さんは、ゴモゴモこのように語るのである。

「やっと軌道に乗りかけました。これも関係者皆さんのお力添えです」

浜口さんは言葉をつづけて、

「まだまだやらねばならないことが沢山ありますネ。」

「これからというところなことです？」

「まず病気ですヨ。カキ殻についている糸状体(夏越しの様子)の黄斑病、あるいは収獲するクサレなどは、これから研究され解明されねばならぬ問題です」

「なるほど病気の予防ということですネ」

「それから施肥ですネ」

「施肥というと肥料をやることですか？」

「海苔場の海水に含まれている栄養塩類 補給をしなければすネ、沢山とれないし、また品質もよくならないのでして、これは密殖(細ヒビを建てこみすぎる)を避けると共に実施して行かねばならないのです。例えば冬季晴天続きで、海苔の色が褪せてきたようなとき、雨や雪によって急に元気をとりもどすなどの経験は栄養塩類が河川より流れ入ることによると認められるのですよ」

「それを人工的にしようとするのですネ」

「そうです。施肥というのはですネ」

「栄養塩類といって主なものは何ですか？」

「まず窒素これが最も大切でして、海苔が発育するとき、海水中で急速に不足してきますから、これにかなり補給しなければなりません、それから燐酸、カリです」

「けれども農業のように土地に撒くのと違って海だと流れ去って跡も残らないことがあつて、だから田子にしてみたり、俵につめてみた

り、竹筒の中につめてみたり、いろいろ的研究中ですよ」

「そうすると、病氣と施肥が今後の大問題ということですね」

「そうです。今からではなくて、今までもかなり研究されていて、それでもまだダメです。むずかしいですよ」

「しかしなんとかやりぬかねば」

X X X

——内海漁業の行詰り打開策として、浅海開発は有力なキメ手の一つである。なかでも海苔は、その高価性によって、漁家の素晴らしいチャンピオンといえよう。

昨年六月、兵庫県海苔養殖協会（会長山本新氏）が発足し、その前途は果水試採苗場の活躍とともに洋々たるものがある。新春を迎えて、この希望多き事業が一層強力な発展を遂げられるように祈る次第である。



漁船にも騒音防止を

陸上の騒音防止は、素人の目から見ても一九五八年のクリーンヒットだと思ふ。街を歩いていても、家にも、その恩恵は極めて大きい。案外心配したものでなく、それによ

って事故が急増したとも聞いてはいない。これで軌道走る車以外は、最少限度余分な音響は抹殺されたわけであるが、騒音というものは、陸上交通機関の警笛だけに止るものではないことに気付かれたい。

明石港入口の騒音だけを主張するようで恐縮であるが、まず脚下を眺めて海の騒音の一端を御披露して見よう。

水産試験場は、御存知のとおり明石港突端にのぞみ、出入の連絡船、漁船、機帆船の気笛、エンジンの音（これがヒドイ）等耳がタコになる程聞かされているが、シケ前等は実にすさまじいとさえ思われるのである。とくに機帆船の連中は、下手な天気予報よりも確実で、明石港内に

マストが林立する頃になると、決つたようにシケがくる。我々の目から見ると、海は風いでいるのに、ドン入港してくる時は、必ずといっていい程シケがやってくる。はるか舞子の彼方から、まるで駆逐艦隊でも押寄せてくるように入港してくるのだから、港内は騒然としてタマツたものではない。明石港にはフェリーポートや連絡船が絶え間なく発着しているが、これらの機帆船のため

に、出るに出不れず、入るに入られず、立往生することが年に一度や二度でなく、この時ばかりは、気笛の音、エンジンの音が入り混ってヒシめき合い、試験場の場員も仕事に手が着かず、この状態を傍観するより仕方がない。さらにその合間を縫って、これまた音のたかい漁船の群がまるで陸上のルノー車のように突進してくるし、イヤハヤ大へんなものである。しかしこれはシケの前ぐらゐのもので、とくに台風シーズンや

これから一月と三月の季節風の頃に多く、辛抱しなければなるまいが、困ったことは、周年（勿論これはシケ以外の日）淡路、明石の漁船が毎日十一時頃から約二時間位にわたって、明石の魚市場へ、マルで元日の神詣でのように、つきからつきへと我先にと入港してくるのには一寸閉口させられる。これが殆んど底曳漁船で、とても十馬力とは思えないような大きな爆発音をかき立てて、連続的に入ってくるのだから、試験場で会議でも開かれていたときであれば、この騒音にかき消されて、一時中断させられるときさえある。耳がタコになっている我々はますますとして、始めての人には驚きに値するのには違いない。反面この音を気にしないのなら、これ程快なものはない、ウソと思う人があったらその時間に明石港入口に立ってみるとよい。勇壮そのものといえよう。勇壮さにおいてこれに劣らないのは、三月頃の、明石のパッチ漁船の出漁時と帰港時の船団である。この時期には夕暮から明石を出て、舞子までを地かた沿いに列をなして進み、明方三時〜四時頃に帰ってくるのであるが、試験場員でこの時分に宿直に当

った人は、一度はこの音に目を覚まされた経験をもっているであろう。沖の方から夜のトバリを破ってひびいてくるあのカン高い電着エンジンの集団音を聞けば、少々神経が太くても目をさまさずにはおれないだろう。恐らく明石・舞子間の海岸ぞいの住宅や旅館では、この時期には、早朝の騒音に悩まされる人が多いだろうと思われる。

まあ海上における騒音も色々あるが、気笛や爆発音だけでなく、この外、たとえば、連絡船であるが、乗客にバラエティーをもたそうとする意図は分るが、出入時には必ずといっていい程レコードをかけ、しかも必要以上にマイクを抜けているのがあり、場内で予算の打合せなどで頭をシボっているときに(チャンキおけさ)などが耳に入ってくると、もういけない。苦笑の域を脱して腹が立ってくるのである。

閑話休題

色々海の騒音の種類をあげてみたが、我々としては何といっても小型漁船エンジンの排気音について考えねばなるまい。煙突からポンポンととびでるあの音が、すでに消音器と名のつくものを通してできたものかどうかうたがいたくなるのである。

最近では単に漁船でなく、農家にも多種多様の小型エンジンが普及しているが、エンジンのかかっている時は話もできない状態で、それは船上におけるよりも人に迷惑をかける度合いは高いだろう。この頃、陸上交通機関の騒音防止に刺戟されてかどうかは知らないが、このような内燃機関の排気音の減少装置に頭を使い出した会社もでてきたようである。

まことに結構なことで、喧しいというより話もできない仕事場というのにはあまり感心したものでない。工場などで、潤滑油の上質なものを使ったり、ペアリングの改良や壁面・床面の改善などによって、機械的騒音をすくなくした結果、作業能率が上って品質さえ良くなったということである。現在、一流メーカーの工場では、話が聞えないというようなことはまずない。

漁船の事故で騒音が原因である、というような統計はつくられていないが、些細に研究すれば、直接・間接騒音が原因となっていることが相当にあるだろう。例えば、ロープに足をとられて海に落ちたり、ロープに巻きこまれるというような事故が、騒音のために「気を付けろ！」という制止の声がとどかなかった、

とか、本人の注意が散漫になっていた(騒音にはたしかにこの心理作用がある)とかいうことがある。さらにまた、舵取りと機関場との話ができないために操船をあやまることもあるろうし、作業能率が落ちることもしらなかるろう。こういう格別めだつた形でなくとも、永い間に騒音が脳神経に非常な悪影響を及ぼすことは科学的に立証されているのである。陸上にせよ、海上にせよ、仕事場の環境は静かであるに越したことはない。

では、漁船機関の騒音防止の具体的な方法となると、エンジンの爆発音が最も問題となる。そのためには排気口に消音器をつけることしか今のところないのである。少くとも小型漁船では独立した機関室がないので、よけいに消音器の工夫が必要となる。

消音器というものは、エンジンの燃焼排気が排出される瞬間の圧力が二・三気圧、温度が四・五百度Cあるからこれを冷却して、急に膨張するのを防ぐ役目をするものである。すなわち排気のもつエネルギーを水に吸収させて、音響のエネルギーに変わるのを減らそうとするものである。であるからその容積はシリンド

1の五倍くらいあり、かつ冷却水を通して残存熱を吸収し、圧力を下げるのである。これが普通の消音器であるが、これではおそろく二〇—三〇デシベル(音の強さの単位)くらい騒音がさがるのがせいぜいである。もちろん音を全く消すことは考えなくともよいが、一〇〇デシベル前後の騒音を五十デシベル(電車のなかくらい)に引下げることができないものだろうか。

最近図のようなものがK社で試作されているが、これが理想的なものかどうかは別として、実験を見た処約珣の音響はかき消され、さらにこれを二本つぎたすことによって、一層音が小さくなるようである。構造は簡単に消音器内部をさらに耐熱物質によって蔽っただけのものであるが、一工夫として仲間面白いものだと思った。まあこれらを参考として

現在の消音器の改良といえは、
一、大きさの問題(大小、長短)
二、形の問題(箱型、円筒型、らせん型等)
三、内部被エィ物質の撰択(耐熱・耐圧)
四、冷却作用(冷却水の増量—急冷等)
の諸点にしばらくられるようである。私

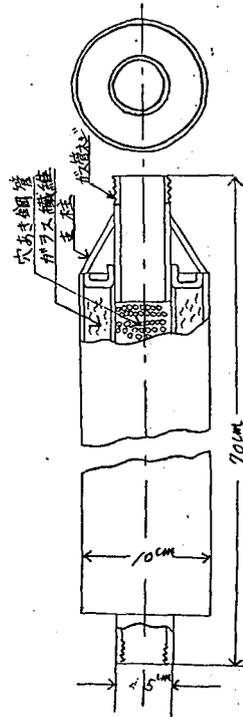
共も本年の研究課題の一つとして、これらを中心に研究していきたいと考えているが、実際にエンジンを扱う人にも、ただ船上において騒音位はヘイチヤラだと思わず、その音に

よって蒙る他人の迷惑も一考して、漁船にも騒音防止ができるよう、工夫していただきたいものである。

兵水試・杉本技師

中間接続用無抵抗消音器 (試作品)

- 1. 大きさ各種あり
- 2. 材質は鋼板熔接で分解可能



農林漁業団体職員共済組合法
 に関連する質問と回答(その二)

【質問】

昭和十九年十月一日から厚生年金の被保険者となり、昭和二十年に片脚切断により障害年金の支給を受け

て今日に至っている。それについて私が本共済組合員になった場合どのような待遇が受けられるかお教え下さい。

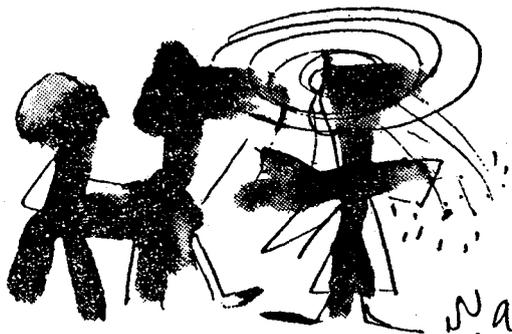
- 1、引続き既得権として障害年金を受けながら勤務出来るか。
- 2、退職したら共済組合法によって障害年金が受けられるか。
- 3、退職したら退職給付又は障害給付からすでに受けた障害年金は差引かれるか。

【回答】

3、当共済組合法において返還を規定しているのは、共済組合からの給付が重複することをさけるためであり、この規定は厚生年金保険法に基づく給付には適用されませんので、お尋ねのような場合差引かれることはありません。

- 1、厚生年金保険法に基く、障害年金は、厚生年金保険法第五十三条(失権)の規定により、本人の死亡又は障害給付を受けるべき廃疾の状態でなくなったような場合以外に給付が停止されることはありません。従って本共済組の発足後もそのまま給付を受けながら勤務することが出来ます。
- 2、当共済組合法はこの点に関し、

法第三十九条で「組合員もしくは任意継続組合員であった間に」傷病にかかり、その結果として廃疾となった者に障害給付を行うこととしており、従って質問のような当共済組合発足前にすでに厚生年金の給付となっている廃疾に対しては給付されません。



賀 正

兵庫県漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

財団法人兵庫県水産改良普及協会

理 事 長 三 浦 清 太 郎

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 弐

兵庫県漁業信用基金協会

理 事 長 三 浦 清 太 郎

副理事長 西 上 重 弐

兵庫県内海漁船保険組合

組 合 長 三 浦 清 太 郎

但馬漁船保険組合

組 合 長 西 上 重 弐

(700)